



Oracle ホワイト・ペーパー
2013年1月

Oracle VM Manager 3.2 : Oracle VM Server for SPARCを管理するためのクイック・ スタート・ガイド

はじめに	2
Oracle SPARCユーザーへのOracle VM Managerの紹介	2
実装の準備	4
事前の準備	4
ハードウェアの準備	5
ネットワーク・インフラストラクチャの準備	5
一元管理された外部ストレージの準備.....	5
Oracle VMソフトウェアのダウンロード	6
Oracle VMテンプレートのダウンロード	6
Oracle VM Serverプラットフォームの構築.....	7
物理サーバーへのOracle Solaris 11とOracle VM Server Agentのインストール.....	7
管理サーバーへのOracle Linuxのインストール.....	10
管理サーバーへのOracle VM Managerのインストール.....	10
Oracle VM Managerへのログイン	15
Manager環境の使用	15

はじめに

このクイック・スタート・ガイドでは、[Oracle VM 3.2リリース](#)の新機能である、Oracle VM ManagerのOracle VM Server for SPARC（旧称Sun Logical Domains）の使用方法について説明します。この新しい機能により、x86またはOracle SPARCのどちらで稼働していても、Oracle VM仮想環境の管理を一元管理することが可能になります。ユーザーはOracle VM Managerを使用して、Oracle VM Server for SPARCを稼働するOracle SPARCサーバーを検出し、仮想マシンを管理できるようになります。

このガイドは、Oracle VM Managerで論理ドメインのゲストを稼働させるために必要な概念と作業の概要を読者に伝えることを目的としています。このガイドの目標は、おもに、Oracle VM Managerを使い始め、Oracle VM Server for SPARCで作業をする読者が、製品の習熟を通じて、Oracle VM環境を適切に設計および実装できるように支援することです。このドキュメントでは、Oracle VMサーバー・プールまたはゲストの設定および構成方法の一般的な手順については扱いません。Oracle VMの操作について詳しくは、Oracle VM Managerユーザー・インターフェースに組み込まれている『スタート・ガイド』、またはOracle Technology Network [ドキュメント](#)で入手可能な『Oracle VM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Oracle SPARCユーザーへのOracle VM Managerの紹介

このリリースのOracle VM Server for SPARCには、Oracle VM ManagerとOracle VM Server for x86との相互運用性が備わっています。その結果、導入されたいくつかの概念について、ここで簡単に取り上げます。

Oracle VM Managerは、仮想化の管理ツールであり、仮想マシン、仮想マシンが稼働するサーバー、仮想マシンが依存するネットワークとストレージ・サービスへのポリシーの管理と適用を行うためのグラフィカル・インターフェースを提供します。Oracle VM Managerは仮想化環境を制御して、Oracle VMサーバーと仮想マシンを作成、監視します。管理者はグラフィカル・インターフェースを使用して、仮想マシンおよび仮想マシンによって使用されるリソースをホストするサーバーを“検出”します。

Oracle VM Managerによって、複数の物理Oracle VM Serverホストがサーバー・プールに分類されます。Oracle VM Managerインスタンスによって、複数のサーバー・プールを管理でき、各サーバー・プールには最大32個の物理サーバーを含めることができます。したがって、1つの管理コンソールで、数百単位の物理サーバーとその上で稼働する仮想マシンが管理されます。Oracle VM Managerは、プールのサーバーを“マスター・サーバー”として割り当て、現在、その役割を持つサーバーに対して、仮想IPという再配置可能なIPアドレスを使用します。Oracle VM Managerはマスター・サーバーを使用することで、Oracle VM Managerホストへの負荷を増やすのではなく、仮想マシン・テンプレートのインポートのような長時間実行のタスクを実行します。そのため、スケーラビリティとユーザー・インターフェースの応答性が改善します。

Oracle VMは共有ストレージ・リポジトリを使用して、仮想マシン・ディスク・イメージ、ISOイメージを含んだファイル、事前構成された仮想マシン・テンプレートとアセンブリを保持します。管理者は、ネットワーク・アクセス可能なソースから、このような構成済み仮想マシン・イメージをインポートして、仮想マシンをこれらのイメージから作成できます。特定のプール内の各サーバーは、共有ストレージ・リポジトリへのアクセス権があります。共有ストレージ・リポジトリは、NFS、ファイバ・チャネル、またはiSCSIを組み合わせていることもあります。

このリリースの場合、リポジトリはNFS for SPARCサーバー上に存在する必要があります。こうすることで、プールに関連付けられたゲストVMをプール内のどの物理サーバー上でも起動し、実行できます。

Oracle VM Server for SPARCは、Oracle VM Server for SPARC制御ドメインにインストールされたエージェントを介して、Oracle VM Managerと統合します。このサポートには、次の前提条件があります。

- Oracle VM Server for SPARC 3.0以上でサポートされるOracle SPARCサーバー。サポートされているOracle SPARCサーバーのリストについては、[リリース・ノート](#)を確認してください。制御ドメインから“ldm -V”コマンドを使用すると、インストールされているバージョンを確認できます。制御ドメインでは、Oracle Solaris 11.1以上を稼働している必要があります。ゲスト・ドメインは、Solaris 10またはSolaris 11のいずれかにすることができます。Oracle VM Agentは制御ドメインにインストールされます。
- Oracle VM Managerは、64ビットのOracle Linux 5.5 OS以上で稼働し、サーバー・プール外に個別のサーバーを必要とします。このサーバーは、物理サーバーまたはx86ホスト上のOracle VM Serverのゲスト仮想マシンのいずれかにすることができます。
- ゲスト・ドメイン・イメージは、外部の共有NFSストレージに保管されます。ストレージ・リポジトリに割り当てられるNFSストレージの容量は、配置するゲスト・ドメインの数とサイズによって決まります。

Oracle VM ManagerおよびOracle Enterprise Manager

[Oracle Enterprise Manager](#)は、インフラストラクチャ管理に重点を置いた包括的な管理製品です。Oracle Enterprise Manager Ops Centerは、Oracle x86とOracle SPARCのハードウェア、ファームウェア、スイッチ、ハードウェア障害分析、My Oracle Supportの統合、BIOS構成、Oracle Solarisオペレーティング・システム、およびOracle Linuxオペレーティング・システムのプロビジョニング、処理、および監視を行います。また、オラクルの仮想化テクノロジーへの高度なサポートを提供し、Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12cにより、プライベート・クラウドとパブリック・クラウドに対応する包括的なクラウド機能を提供します。これに対して、Oracle VM Managerは、仮想化レイヤーの管理バックプレーンとなります。ユーザーは必要な機能に基づいて製品を選択できます。また、Oracle Enterprise Managerは、Oracle VM Managerインスタンスに接続して、これらのインスタンスを検出することが可能なので、組み合わせて連携させることができます。

このリリースでは、これらの統合に対するOracle SPARCシステムのテストが完了していないため、現時点では、Oracle VM Manager 3.2.1ビルドをOracle Enterprise Manager 12cまたはOracle Enterprise Manager Ops Center 12cと併用しないことをお勧めします。これらを併用する場合、Oracle Enterprise Managerの本番インスタンスは使用しないでください。

実装の準備

最初のフェーズでは、基本的なハードウェア、オペレーティング・システムとアプリケーションのダウンロード、ストレージ、およびネットワークを含めた事前の準備に取り組みます。

Oracle VMについて詳しくは、[Oracle VM OTNページ](#)でホワイト・ペーパーを参照してください。

全読者を対象とする特記事項

オブジェクト名、場所、構成の例は、概念を説明するために使用されるものであり、そのままコピーしないでください。リポジトリ名、ホスト名、IPアドレス、ネットワーク構成、およびネットワーク・ロールの割当ては例であり、特定の環境を構成する方法として見なさないでください。

事前の準備

このテクノロジーを実行するには、Solaris 11.1以上の制御ドメインとともに、Oracle VM Server for SPARC 3.0を稼働するOracle SPARCサーバー1台以上、Oracle VM Manager 3.2.1またはx86デスクトップ用の個別のx86物理サーバー1台、NFSを処理する単一の外部ストレージ・ユニットが必要です。実際の構成には、1台のみのOracle SPARCサーバー、またはプールあたり最大32台の物理サーバーを持つ複数のプールが存在するかもしれませんが、Oracle VM Manager用の個別のサーバー1台または個別のx86マシン上で稼働するOracle VMゲスト、サーバー・プール内のすべての物理サーバーによるアクセスが可能なNFSストレージが必要であることには変わりありません。

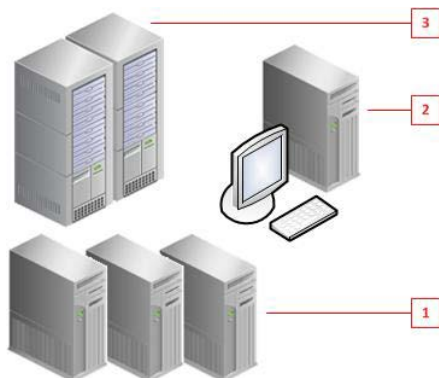


図1：この図は、サーバー・プールの3台のサーバー、Oracle VM Manager用の1台のx86サーバー、およびストレージ・アレイを示しています。

表1：必要なハードウェア

1	上の図は、Oracle VM Server for SPARC 3.0を稼働する3台のOracle SPARCサーバーを示しています。これらのサーバーは、Oracle VM ゲスト・イメージをホストするためのサーバー・プールの作成に使用されます。
2	上の図は、Oracle VM Manager 3.2.1を稼働する、個別の64ビットのx86物理サーバーを示します。
3	上の図は、Network File Systemを使用して、ディスク領域として機能するストレージ・アレイを示します。これは、Oracle ZFS Storage Appliance、NFS共有を処理するOracle Solarisシステム、または互換性のあるNFSサーバーにすることができます。

ハードウェアの準備



Oracle VM Server for SPARCハイパーバイザは、サーバーのファームウェア内に存在しているため、最新バージョンのファームウェアを実行することが重要です。サーバーに必要なファームウェア・バージョンを確認するには、[リリース・ノート](#)を参照し、論理ドメインのマネージャ・ソフトウェアをインストールする前に、必要に応じてサーバーを更新してください。

サーバーをまったく同じに構成することをお勧めします。つまり、プロセッサ・タイプ (SPARC T4 プロセッサなど) とメモリ・サイズを同一にし、PCIカードを全サーバーで同じスロットに取り付け、各サブネットのネットワーク・ケーブルをサーバーの同じポートに接続し、ファームウェア・リビジョンを各物理サーバーで同一にします。こうすることで、後でシステムをインストールして使用するときに、混乱を軽減できます。また、各Oracle SPARCサーバー上のILOM (Integrated Lights Out Manager) サービスを介して、コンソールにアクセスできるようにします。

ネットワーク・インフラストラクチャの準備



実装に応じて複数のIPアドレスを割り当てる必要があります。単一のネットワークを使用できますが、各サーバーの制御ドメイン、ゲスト、Oracle VM Manager、およびサーバー・プールで使用される再配置可能なIPアドレス用に個別のアドレスを用意する必要があります。

本番の実装では、複数のネットワークを使用して、仮想マシンI/O、ネットワーク・ストレージへのアクセス、および管理用にトラフィックを分離するとよいでしょう。Oracle VM Managerは、異なる物理インターフェース/VLAN上で複数のサブネットをサポートします。通常の実装には、“パブリック”、“ストレージ”、および“プライベート/管理”サブネット用の個別のネットワークが含まれます。この使用開始チュートリアルでは、説明をシンプルにするために、1つのネットワークを使用します。

一元管理された外部ストレージの準備



ストレージ・リポジトリ用に、ディレクトリを作成し、NFSを介して提示 (エクスポート) する必要があります。このファイル・システムは、Oracle VMゲスト・イメージおよびサーバー・プールのすべてのストレージ関連リソース用に使用されます。共有は、プール内のサーバーによってルート書き込み可能になるよう設定する必要があります。

Oracle VMソフトウェアのダウンロード



ダウンロードには複数のパスがあります。

- Oracle Solaris 11.1以上。事前インストール済みのOracle VM Server for SPARC 3.0 Logical Domains Managerが付属。このソフトウェアは制御ドメインを作成するため、Oracle SPARCサーバーにインストールされています。このドキュメントでは、Oracle VM Server for SPARCの構成方法に関する詳細な手順は扱わず、Oracle VM Server for SPARCをOracle VM Managerで使用方法についておもに説明しますが、必要な最小限のコマンドを以下に示します。
- Oracle VM Agent 3.2.1 for SPARC。このエージェントは、Oracle VM Server for SPARCとOracle VM Managerの間のインタフェースとして機能します。リリースの発表で説明されているように、Oracle Technology Networkからダウンロード可能です。
- ゲストOSインストール用のCD-ROMまたはDVDの“.iso”形式での、Oracle Solaris 11.1およびOracle Solaris 10インストール・イメージ
- Oracle VM Manager 3.2.1インストーラISOイメージ。Oracle VM Managerは、Oracle WebLogic Serverアプリケーション・サーバーとOracleデータベースまたはMySQLデータベースに基づくOracle Fusion Middlewareアプリケーションです。Oracle VM Managerは、64ビットのOracle Linux 5.5 OS以上で稼働します。管理リポジトリは、同じ管理サーバーまたは個別のサーバーにインストール可能なMySQL DatabaseまたはOracle Database内に存在します。MySQL Databaseは、Oracle VM Manager 3.2.1に同梱されています。
- Oracle Linux ISOイメージ。Oracle VM Manager 3.2.1がインストールされる物理サーバーで必要です。このドキュメントでは、そのプロセスについては扱いませんが、Oracle VM Manager 3.2.1を、ネットワーク内でOracle Linuxを稼働するVMゲストにインストールできます。ただし、Oracle VM Serverとは独立した状態にする必要があります。

Oracle VMテンプレートのダウンロード



このドキュメントの執筆時点では、事前構築されたOracle Solarisイメージとともにダウンロード用に公開されているOracle VM Server for SPARCテンプレートまたはアセンブリはありません。ダウンロードが可能になり次第、Oracle Solarisテンプレートをダウンロードして、Oracle VMにインストールする方法の手順を紹介します。

それまでの間、Oracle SolarisゲストをISOイメージからインストールするか、Oracle Solaris Jumpstart (Oracle Solaris 10の場合) または自動インストーラ (Oracle Solaris 11の場合) に基づくネットワーク・インストールを使用してインストールしてください。ISOイメージ、アセンブリ、およびテンプレートのダウンロードが完了したら、次のタスクを実行してください。

- ダウンロードしたファイルを、Oracle VM Managerからアクセス可能な内部Webサーバーにコピーまたは移動します。Oracle VM Managerは最終的に、このチュートリアルの一部としてインストールします。このWebサーバーは、後のステップでテンプレートをインポートするために、Oracle VM Managerによって使用されます。
- ファイルが.zip形式の場合は解凍します。

次のステップ

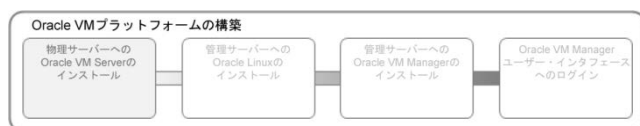
準備フェーズは、上記のタスクをすべて終えたら完了となります。次に、Oracle VM環境のプラットフォームを構築する主要フェーズに移ります。

Oracle VM Serverプラットフォームの構築

Oracle VM Server for SPARCソフトウェアは、Oracle Solaris 11.1に事前インストールされているため、個別にダウンロードする必要はありません。ほとんどの構成タスクは、論理ドメインCLIではなく、Oracle VM Server AgentまたはManagerによって実行されるため、Oracle VM Serverの事前の構成作業の量は最小限で済むはずですが。

既存システムにSolaris 11.1がインストールされ、Oracle VM Server for SPARC 3.0がすでに稼働している場合は、次に説明するように、ovs-agentのインストールに直接進むことができます。既存のゲスト・ドメインは別のサーバーに移行する必要があります。

物理サーバーへのOracle Solaris 11とOracle VM Server Agentのインストール



このドキュメントでは、[Oracle Solaris 11のインストール](#)作業は扱いません。『Oracle Solaris 11システムのインストール』のマニュアルを参照してください。インストールが完了するときには、システムのホスト名、タイム・ゾーン、言語、1つのインタフェースのネットワーク構成、ネーミング・サービスの指定、初期ユーザー・アカウントとパスワードの指定が完了します。ネットワークではDefaultFixedネットワーク構成プロファイルを使用し、サーバー・ホスト名は"localhost"以外の名前にし、127.0.0.1以外のIPアドレスにする必要があります。

Oracle VM Agentをインストールする前に、サーバーを工場出荷時のデフォルト構成にしておく必要があります。Oracle VM Agentをインストールする際、Oracle VM Managerでサーバーを適切に操作できるように、Oracle VM Agent設定ツールによって初期論理ドメイン構成が作成および保存されます。

このサーバーが以前、ゲスト・ドメインをホストするために使用されていた場合、ドメインは別のサーバーに移行するか、停止してバインドを解除する必要があります。仮想デバイス・サービスは削除して、サーバーを工場出荷時のデフォルト構成にリセットします。この作業を行うには、制御ドメインを停止し、サーバーの電源を入れ直す必要があります。このプロセスを完了すると、サーバーはOracle VM Server Agentをインストールするのに適切な状態になります。

```
# ldm stop -a
# ldm unbind <domain> # repeat for each guest domain
# ldm rm-vds primary-vds0
```



```
# svcadm disable vntsd
# ldm rm-vcc primary-vcc0
# ldm rm-vsw primary-vsw0
# ldm set-config factory-default
# shutdown -y -g0 -i5
```

Oracle Solarisを停止した後、サービス・プロセッサにログインして、システムの電源を入れ直し、工場出荷時のデフォルト構成をロードします。

```
-> stop /SYS
-> start /SYS
```

この時点で、Oracle SPARCサーバー上で単一ドメインが稼働し、すべてのサーバーのCPUとRAMを所有しています。手動のOracle VM Server for SPARC構成の場合、管理者は、制御ドメインのサイズを軽減して、CPUとRAMをゲスト・ドメイン用に解放するために、コマンドを実行します。また、仮想ディスク、仮想ネットワーク、および仮想コンソール・コンセントレータ・サービスも定義します。Oracle VM Agentによって自動的に制御ドメインが再構成され、新しい構成が保存され、必要なサービスが定義されるため、ここではこの作業を省きます。

これで、Oracle VM Managerとの通信に使用するOracle VM Agent (“ovs-agent”) をインストールできます。指示に従って、ovs-agent tarファイルをダウンロードしてから、次に示すように、エージェントをインストールします。エージェントのパスワードを入力してから、サーバーを再起動してインストールを完了するように指示されます。実際のファイル名は異なります。

```
# tar zxf ovs-ldoms-3.2.1.tar.gz
# cd ovs-ldoms-3.2.1
# ./install
Oracle VM Agent Release 3.2.1 Installer

- Installing Packages

      Packages to install:  6
      Create boot environment: No
      Create backup boot environment: No
      Services to change:  1

DOWNLOAD                                PKGS      FILES    XFER (MB)  SPEED
Completed                                6/6       226/226    1.6/1.6    0B/s

PHASE                                     ITEMS
Installing new actions                    352/352
Updating package state database           Done
Updating image state                      Done
Creating fast lookup database             Done

- Configuring the OVS Agent
```

```
Network Configuration
Network Configuration OK
OVS Agent Configuration
*** ERROR: The Oracle VM agent password is not defined.
-----

Oracle VM Agent password

Enter a password for the Oracle VM agent (ovs-agent)
This password is used in Oracle VM manager to manage
and monitor this server and its guest VMs. You must
type it twice to ensure you know what it is and
didn't make a mistake in typing.
Password:
Password (confirm):

OVS Agent Configuration OK
LDoms Manager Configuration
*** WARNING: The LDoms Manager is not configured for unauthenticated migration.
Configuring the domain manager
LDoms Manager Configuration OK
LDoms Configuration
*** ERROR: The vcc service is not configured on the primary domain.
*** ERROR: The vds service is not configured on the primary domain.
*** WARNING: The primary domain is configured with too many cpus for creating guest virtual
machines.
*** WARNING: The primary domain is configured with too much memory for creating guest virtual
machines.
*** WARNING: The primary domain is not configured with the recommended number of cpus (8).
*** WARNING: The primary domain is not configured with the recommended amount of memory (8GB).
*** WARNING: The ovm-initial configuration is not stored on the service processor.
Configuring the vcc service
Configuring the vds service
Configuring the primary domain
Saving the ovm-initial configuration on the service processor
LDoms Configuration OK
-----

LDoms Configuration

The LDoms configuration has been created and stored on the
service processor. To activate this configuration, you need
to reboot the system.
Do you want to reboot the system now?
  1) Yes, reboot the system now
  2) No, I will reboot the system later

Choice (1-2): 1
```

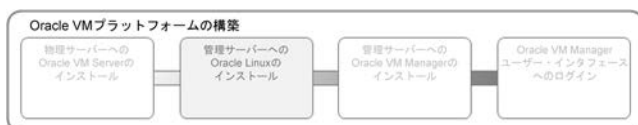
```

-----
Server Reboot
!!! WARNING !!!
You are not connected to the system console. Rebooting
the server will close this connection with the server.
!!! WARNING !!!
Are you sure that you want to continue?
  1) Yes, continue and reboot the system now
  2) No, cancel the reboot, I will reboot the system later
Choice (1-2): 1
Rebooting the system...

```

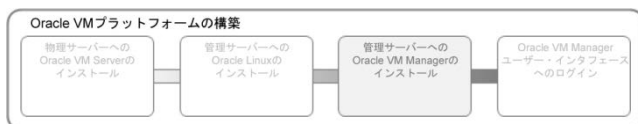
インストールが完了し、システムが稼働したら、Oracle VM Server上で構成するものは何もありません。これで、Oracle VM Managerをインストールして構成できます。

管理サーバーへのOracle Linuxのインストール



Oracle VM Manager 3.2.1がインストールされる物理サーバーには、Oracle Linuxが必要です。このドキュメントでは、そのプロセスについては扱いませんが、Oracle VM Manager 3.2.1を、ネットワーク内でOracle Linuxを稼働するVMゲストにインストールできます。ただし、Oracle VM Serverとは独立した状態にする必要があります。このチュートリアルでは、Oracle Linuxが物理（ベア・メタル）サーバーにインストールされることを想定しています。

管理サーバーへのOracle VM Managerのインストール



Oracle VM Managerは、最後のセクションのステップで作成するストレージの追加、ネットワークの追加など、Oracle VM Server上におけるリソースの構成を処理します。Oracle VM Managerをインストールするには、/u01という8ギガバイト以上のファイル・システムを作成して、Oracle Linuxのインストール先の物理サーバーにマウントします。それから、ダウンロード済みのOracle VMインストーラISOを/mntにマウントします。次に、createOracle.shスクリプトを実行して、必要なユーザー、グループ、IPフィルタ、その他の設定を作成します。

```

# mount -o ro,loop /tmp/MyOracleVMinstaller.iso /mnt
# cd /mnt
# ./createOracle.sh

Adding group 'oinstall' with gid '54321' ...

Adding group 'dba'

```

```
Adding user 'oracle' with user id '54321', initial login group 'dba', supplementary group
'oinstall' and home directory '/home/oracle' ..

Creating user 'oracle' succeeded ...

Verifying user 'oracle' OS prerequisites for Oracle VM Manager ...

oracle  soft  nofile          8192
oracle  hard  nofile          8192
oracle  soft  nproc           4096
oracle  hard  nproc           4096
oracle  soft  core            unlimited
oracle  hard  core            unlimited

Setting user 'oracle' OS limits for Oracle VM Manager ...

Altered file /etc/security/limits.conf

Original file backed up at /etc/security/limits.conf.orabackup

Verifying & setting of user limits succeeded ...

Creating mountpoint '/u01' ...

Modifying iptables for OVM

Adding rules to enable access to:

    7001 : Weblogic t3

    7002 : Oracle VM Manager https

    15901 : Oracle VM Manager VM console proxy

    54321 : Oracle VM Manager core

    54322 : Oracle VM Manager core via SSL

    123 : NTP

    10000 : Oracle VM Manager CLI Tool

iptables: Saving firewall rules to /etc/sysconfig/iptables:[ OK ]

Rules added.
```

createOracle.shが完了したら、インストーラをrootとして/mntから起動します。次の例は、MySQL、Oracle WebLogic Server、Oracle Application Development Framework (Oracle ADF)、Java、およびOracle VM Managerをローカル管理サーバーにインストールする、簡単なインストールを示します。ファイル名とメッセージはやや異なる場合があります。

```
# cd /mnt
# ./runInstaller.sh

Oracle VM Manager Release 3.2.1 Installer
Oracle VM Manager Installer log file:
  /tmp/ovm-manager-3-install-2012-11-30-181411.log

Please select an installation type:
  1: Simple (includes database if necessary)
  2: Custom (using existing Oracle database)
  3: Uninstall
  4: Help

  Select Number (1-4): 1

Starting production with local database installation ...
```

インストーラにより、処理の続行前に前提条件が満たされていることが確認され、パスワードを入力するよう指示されます。このパスワードは、インストールされた全製品で使用するデフォルト・パスワードとなり、インストーラの完了後には、Oracle VM Managerユーザー・インタフェースのログイン・パスワードにもなります。

```
Verifying installation prerequisites ...
*** WARNING: Recommended memory for the Oracle VM Manager server installation is 3950 MB RAM

One password is used for all users created and used during the installation.
Enter a password for all logins used during the installation:
Enter a password for all logins used during the installation (confirm):
```

インストーラにより、パスワードと空き領域要件が確認された後、処理を続行するように指示されます。

```
Verifying configuration ...
Start installing the configured components:
  1: Continue
  2: Abort
  Select Number (1-2): 1
```

実際のインストール・プロセスは、次の数分間で次のようなメッセージが表示されて開始されます。インストール・プロセス全体で20分以上かかることがあります。

```
Step 1 of 9 : Database Software...
Installing Database Software...
Retrieving MySQL Database ...
Installing MySQL Database 5 ...
Unzipping MySQL File ...
Configuring MySQL Database 5 ...

Step 2 of 9 : Java ...
```

```
Installing Java ...

Step 3 of 9 : Database schema ...
Creating database 'ovs' ...
Creating user 'ovs' for database 'ovs'...

Step 4 of 9 : WebLogic ...
Retrieving Oracle WebLogic Server 11g ...
Installing Oracle WebLogic Server 11g ...
Step 5 of 9 : ADF ...
Retrieving Oracle Application Development Framework (ADF) ...
Unzipping Oracle ADF ...
Installing Oracle ADF ...
Installing Oracle ADF Patch...

Step 6 of 9 : Oracle VM ...
Retrieving Oracle VM Manager Application ...
Extracting Oracle VM Manager Application ...
Installing Oracle VM Manager Core ...

Step 7 of 9 : Domain creation ...
Creating Oracle WebLogic Server domain ...
Starting Oracle WebLogic Server 11g ...
Configuring data source 'OVMSDS' ...
Creating Oracle VM Manager user 'admin' ...

Step 8 of 9 : Deploy ...
Deploying Oracle VM Manager Core container ...
Deploying Oracle VM Manager UI Console ...
Deploying Oracle VM Manager Help ...
Granting ovm-admin role to user 'admin' ...
Set Log Rotation ...
Disabling HTTP and enabling HTTPS...

Step 9 of 9 : Oracle VM Manager Shell ...
Retrieving Oracle VM Manager Shell & API ...
Extracting Oracle VM Manager Shell & API ...
Installing Oracle VM Manager Shell & API ...

Retrieving Oracle VM Manager Upgrade tool ...
Extracting Oracle VM Manager Upgrade tool ...
Installing Oracle VM Manager Upgrade tool ...

Retrieving Oracle VM Manager CLI tool ...
Extracting Oracle VM Manager CLI tool...
Installing Oracle VM Manager CLI tool ...
Copying Oracle VM Manager shell to '/usr/bin/ovm_shell.sh' ...
Installing ovm_admin.sh in '/u01/app/oracle/ovm-manager-3/bin' ...
Installing ovm_upgrade.sh in '/u01/app/oracle/ovm-manager-3/bin' ...
```

```
Enabling Oracle VM Manager service ...
Restarting Oracle VM Manager instance ...

Waiting 15 seconds for the application to initialize ...

Oracle VM Manager is running ...

Oracle VM Manager installed.
```

Oracle VM Managerインストーラの完了後、次の情報が表示されます。インストール後のメッセージには、Oracle VM Managerに関する重要な情報が含まれているため、今後参照する場合に備えてテキスト・ファイルに保存してください。

```
Installation Summary
-----
Database configuration:
  Database type           : MySQL
  Database host name      : localhost
  Database name           : ovs
  Database listener port  : 49500
  Database user           : ovs

Weblogic Server configuration:
  Administration username : weblogic

Oracle VM Manager configuration:
  Username                : admin
  Core management port     : 54321
  UUID                    : 0004fb00650100002f72ae7c96ce1dc6

Passwords:
There are no default passwords for any users. The passwords to use for Oracle VM Manager,
Database, and Oracle WebLogic Server have been set by you during this installation. In the case
of a default install, all passwords are the same.

Oracle VM Manager UI:
  https://MyManager:7002/ovm/console
Log in with the user 'admin', and the password you set during the installation.
Please note that you need to install tightvnc-java on this computer to access a virtual machine's
console.
For more information about Oracle Virtualization, please visit:
  http://www.oracle.com/virtualization/
Oracle VM Manager installation complete.
```

図2 : Oracle VM Managerインストーラによって表示されるインストール後の重要な情報。情報のコピーを取り出しやすい場所に保管してください。

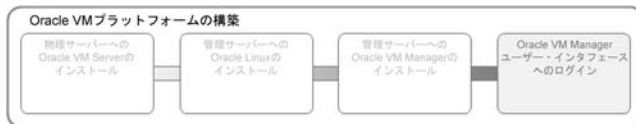
最後のタスクとして、Javaシリアル・コンソール・クライアントをインストールします。x86サーバーをインストールする場合は、VNCクライアントをインストールします。これらのパッケージのダウンロード手順は、『Oracle VM Installation and Upgrade Guide』の「[Installing and Configuring Virtual Machine Console Utilities](#)」に記載されています。こうすることで、Oracle VM Managerを使用して、x86グラフィカル・コンソール・セッションとOracle VMゲストを稼働するシリアル・コンソールを起動できます。

```
# rpm -ivh tightvnc-java-1.3.9-4.noarch.rpm
# rpm -ivh jta-2.6-1.noarch.rpm
```

図3 : VNCクライアントとJavaシリアル・コンソール・クライアントのインストール・プロセス

この図は、インストール中のTightVNCを示すものですが、無償のRealVNCで代用でき、場合によっては、マウス・コントロールがより優れていることがあります。また、Oracle Linux 6は、TigerVNCというTightVNCの派生版が付属し、Oracle VM ManagerがOracle Linux 6にインストールされている場合は、TightVNCの代わりに使用します。

Oracle VM Managerへのログイン



この時点では他に構成するものはなく、次の図に示すように、サポートされているブラウザでOracle VM Managerユーザー・インタフェース (UI) に接続できます。Oracle VM Manager UIのブラウザURLは、先に保存したインストール後の情報に記載されており、次のように表示されます。

```
https://MyManager:7002/ovm/console
```

以前のバージョンのOracle VM Managerと違って、プレーン・テキストの“http”ログインがないため、“https”が必要になります。署名証明書なしでWebサイトにSSL接続しているため、信頼できないサイトについてのメッセージが表示されます。“admin”、およびOracle VM Managerのインストールを実行するときに設定したパスワードを使用して、Oracle VM Manager UIにログインします。

Manager環境の使用

この時点で、Oracle SPARCサーバーとx86サーバーおよび仮想マシンを実行するように、Oracle VM Manager環境とサーバーを構成できます。詳しくは、[Oracle VMドキュメント](#)の『スタート・ガイド』を参照してください。また、Oracle SPARCの実装サービスにも相違があります。特に、ストレージはファイバ・チャネルまたはiSCSIではなく、NFS上に存在する必要があります。また、vncを介して仮想コンソールにアクセスしない点にも留意してください。代わりに、仮想マシンを起動するときにクリックするシリアル・コンソール・アイコンがあります。製品の他のほとんどの側面は似通っているので、サーバー・プール、ストレージ・リポジトリ、ネットワーク、仮想マシンを定義するライフ・サイクルは、同じように行われます。

Oracle VM Server for SPARCに精通しているユーザーは、運用の相違に留意してください。環境は、マネージャおよびエージェントのソフトウェアによって制御されるため、論理ドメイン構成を変更する“ldm”コマンドは使用しないでください。ただし、“ldm list”、“ldm list- bindings”、“ldm list-services”などの“ldm list”コマンドの使用は安全です。Oracle VM Managerは起動時のみ、論理ドメインを制御ドメインに定義するため、非アクティブなゲスト・ドメインは、“ldm list”コマンドでは表示されません。ゲスト・コンソールには、制御ドメインからゲストにバインドされたポートへのローカルtelnetでアクセスできます。または、Oracle VM Manager GUIが提供するシリアル・コンソール・アイコン(以下を参照)をクリックします。



まとめ

このテクノロジー・リリースでは、Oracle VM Server for SPARCのユーザーは、Oracle VM Managerの管理機能とグラフィカル・ユーザー・インタフェースで、論理ドメインの使用を開始できます。



Oracle VM 3.2.1 : Oracle SPARC
ユーザー向けクイック・スタート・ガイド

2013年1月

著者 : Jeff Savit

共著者 : Honglin Su, Greg King

Oracle Corporation
World Headquarters
500 Oracle Parkway
Redwood Shores, CA 94065
U.S.A.

お問い合わせ窓口

Oracle Direct

TEL 0120-155-096

URL oracle.com/jp/direct



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。 0612

Hardware and Software, Engineered to Work Together